

敗血症患者の予後とリスク因子の検討 に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2022年2月19日～ 2024年3月31日

〔研究課題〕

敗血症性患者の予後の経時的推移とそれに影響する因子の検討

〔研究目的〕

敗血症は、生命を脅かす感染に対する生体反応であり、組織障害や臓器障害をきたすため、集中治療室（ICU）での全身管理および治療が必要になります。世界的にも致死率の高い病態です。近年では敗血症に対する初期治療が標準化されてきた事により、先進国での致死率は改善傾向にあると考えられています。一方で、敗血症から回復できたものの、歩行障害や麻痺、認知症や精神的な後遺症を患う方も集中治療後症候群（PICS）という形で近年注目されています。現在、当院GICU（general intensive care unit）での敗血症患者の現状を把握し、リスクとなる原因を検討する目的で研究を行っております。

〔研究意義〕

当院GICUにおける敗血症患者の現状を知り、リスク因子を評価する事で、治療介入への改善策を打ち出すことができます。当院に留まらず、今後の敗血症治療の改善への一役となる可能性があります。

〔対象・研究方法〕

本研究は2017年4月1日から2020年12月31日までの期間に、帝京大学医学部附属病院のGICUで敗血症性ショックと診断された19歳以上の患者380例を対象とし、診療記録より過去に遡って対象患者のデータ（年齢、性別、身長、体重、検査結果、バイタルサイン、使用輸液、薬剤など）や転帰（死亡や日常生活動作）を抽出して行う（後ろ向きコホート）研究です。死亡率、ICU退室後の生存者状態を調べ、それらに関与するリスク因子を解析します。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部麻酔科学講座

〔個人情報の取り扱い〕

すべての情報は診療記録からデータ抽出した時点で匿名化し、パスワードロックされたファイルで帝京大学医学部麻酔科学講座内に施錠して保管します。原則、取り扱いも匿名化データのみを用いて行います。研究終了後、電子化したファイルを倫理委員会事務局に提出し、帝京大学臨床研究センターにて10年保管の後に廃棄します。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：澤村成史・帝京大学医学部麻酔科学講座・主任教授

研究分担者：張京浩・帝京大学医学部集中治療部・教授

鬼丸大知・帝京大学大学院医学研究科 大学院生

所属：麻酔科学講座

住所：〒173-8606 東京都板橋区加賀2丁目11-1 TEL：03-3964-1211(代表)〔内線 7266〕